



STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ 2009 推進ニュース

— 介護ウェーブの “Big Wave” をおこそう! —

「介護ウェーブ推進ニュース」200号に向けて 各地の取り組みをお寄せください!

**「困ってること、沢山あるんだ」かりぷ・もみじ台団地総訪問で100人と対話
400件近く訪問して、100人以上と対話 次回は7月25日(北海道)**

6月27日午前、30度近い気温の中、19人(職員12人/友の会員7人)で、1回目のもみじ台団地総訪問行動を行いました。エレベーターのない5Fまであがって、その大変さを実感しながら、「介護に笑顔を」署名を訴えました。

住民の方から「92歳の母親を妹が面倒見てる。もっとサービスを使いたいけれど、お金がかかるから」などの声が寄せられました。また、最初ドアを開けてくれなかった人が郵便受けから入れた署名用紙を見て、署名をして後から追いかけてきてくれたり、「知り合いにも頼むから」と署名用紙を5枚も預かってくれた人など、うれしい体験もできました。

1時間半の行動を終えて「暑い、暑い」と戻ってきたところ、友の会のみなさんがそうめんの炊き出しをしてくれていて、おいしくいただきながら交流しました。

留守が多かったのですが、400件近く訪問して、100人以上と対話でき、「生で話と聞くと、団地の様子がよくわかった」行動になりました。2回目の訪問行動は、7月25日に行うことにしています。

介護に笑顔を! 2回目の街頭宣伝 暑い中がんばって、署名312筆!

6月27日午後、札幌PARCO前の交差点4つ角を全部埋めて、介護現場の職員30人が「介護保険の改善」を訴えて、署名を呼びかけました。

この日のために用意した「署名ハガキいりポケットティッシュ」を800コ配布し、署名も312筆寄せられました。高校生や若者たちからお年寄りまで大変好評でした。(北海道民医連 NEWS 09.6.29 より)



**社保協主催「介護保険制度改善におけた全国交流集会」開催
全国から92名が参加し、各地の取り組みを交流(6月28日・東京)**



中央社保協主催「介護保険制度改善におけた全国交流会」が全国から90名を超える参加で開催され、民医連からも多くの参加がありました。午前中に林泰則事務局次長(全日本民医連)の講演「介護保険制度10年目の総括と情勢」と、行動提起が行われました。午後は介護労働者、利用者・家族、事業者、自治体労働者など、各立場からの報告を受け、フロアーも交えてディスカッションが行われました。家族の立場で発言した福井さん(東京社保協)は、旦那さんが認知症になった経験を報告。福井さんは講演活動等で家を空けることが多く、旦那さんの症状も重くなり入院を決断。しかし、3~4ヶ月待ちの病院ばかりで、やっと見つかった精神病院に入院しましたが、食事も廊下に並んで食べるなど留置所みたいな所で、その後、リハビリができる病院に転院し、本当に胸がつぶれる思いだったと、当時の状況を振り返りました。その上で、夫が豊かな老後を送るために何ができるのか、人間の尊厳が守ることができるようにみなさんと頑張っていきたいと決意を述べました。

お問い合わせは、「介護ウェーブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp